

ホオジロ類(アオジ, ノジコ, クロジ, ホオジロ)1W の初列風切換羽状況 梶田学(京都府)

ホオジロ類の一部の種では、幼羽から第1回冬羽(1W)への換羽の際に初列風切羽を部分的に換羽することが知られている。このことが日本でよく知られているのはアオジであるが(佐藤 1989, 石本 1992)、ノジコ、ホオジロでも同様の換羽を行うことが明らかになってきている。これら初列風切の一部換羽を行う種のうち、ノジコ、ホオジロ、および換羽を行わないと思われるが詳細な情報が得られていないクロジの換羽状況を京都府および兵庫県内で主に秋期の捕獲により調査し、アオジのデータとの比較を行った。調査期間は種によって異なるが2001~2015年の間である。また、解析データには、梶田あまね氏、太田貴大氏の調査結果を含んでいる。

結果として、クロジは1Wの個体で幼羽から第1回冬羽への換羽は認められず、モルトコントラストが見られた個体はなかった(n=183)。従って、本種は幼羽初列風切羽の部分換羽を行わない可能性が強く示された。一方、ノジコ、ホオジロには、1Wの個体で、初列風切の幼羽(旧羽)から第1回冬羽(新羽)への換羽を行っている個体が確認された。モルトコントラストとの認められた個体は、いずれもアオジの換羽様式と同様に初列風切の内側に旧羽を残し、外側が新羽となっていた。

モルトコントラストの認められた個体について、換羽して新羽となった初列風切羽の枚数を調べた結果、ノジコ、ホオジロのいずれも、外側5枚が新羽となっている個体が最も多く(ノジコ54%、ホオジロ52%)これはアオジと全く同様の傾向である。しかし、ノジコもホオジロも次いで個体数の多いのは、外側6枚が新羽となっている個体で、特にノジコは顕著である(ノジコ30%、ホオジロ21%)。この点は、アオジでは外側5枚が新羽の個体に次いで、外側4枚が新羽の個体が多く(32%)、外側6枚が新羽の個体がごく少数(2%)であるのとは明確に異なっている(石本 1992)。

なお、ノジコの平均換羽枚数は5.38枚(n=127)、ホオジロは平均換羽枚数4.52枚(n=29)であった。ちなみに石本(1992)でのアオジの平均換羽枚数は4.37枚で、ノジコより約1枚少なく、ホオジロと同等である。

現時点では、互いに近縁であるアオジに比べて、ノジコの換羽枚数がより多い傾向が、どのような理由に基づくものであるのかは明確でなく、今後渡り距離や翼の形状などの詳細を調査した上で、考察していく必要があると思われる。

【引用文献】

- 佐藤文男 1989. 昭和63年度 鳥類観測ステーション報告: 100-102.
石本あゆみ 1992. 山階鳥類研究所研究報告 24: 1-12.